

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人
小羊学園

〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町 2709-12
電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707
E-mail kohitsuji@imix.or.jp
H.P <http://www.kohitsuji.or.jp/>
発行人：稲松 義人
印刷所：S R S 株式会社
定 価：一部 30 円

2012年 12 月 20 日
第 356 号

避難所から仮設住宅へ、 復興住宅から地域再生へ

理事長 稲松 義人

私は昨年から、日本キリスト教団（日本のプロテスタント教会の中では最も大きい教派）が設置した東日本大地震救援対策本部の委員に、日本キリスト教社会事業同盟（日本キリスト教団に所属する社会福祉法人等により構成されている団体）の代表として加わっています。日本キリスト教団は、被災した教会への支援とともに、いくつかの人道支援（地域での復興支援活動）にも取り組んできていますが、その一つに岩手県の遠野市に設置した「ハートフル遠野」という被災者支援センターがあります。

当初はそこを拠点とし、メンタルケアの専門家をお願いして三陸海岸沿いの市町で個別訪問することを計画しました。いくら専門家とはいえ、県外からきた初対面の人の個別訪問には、被災した方が受け入れにくさを感じられたようでした。今年度からは、釜石市社会福祉協議会との連携により、釜石市の仮設住宅で住民の孤立防止、心理的サポートのために開かれている「お茶っこ」というサロン4か所の運営をお手伝いしています。スタッフはもと

もと専門の方ではないですが、地元のことをよく知っており、何よりも丁寧な準備をして対応していることよって仮設住宅の方たちにたいへん喜ばれています。

地域での支援活動ということで、社会福祉の関係者として本部委員に加わっている私としては、一度実際に現場を見てみたいと思いつながら、なかなか実現できずにいましたが、先月三泊四日で岩手に行くことができました。

遠野のセンターを朝出発し、仮設住宅に9時半頃に到着、サロンの準備をして、10時から12時までと13時から15時までサロンを開きます。お茶とお菓子を囲んで、またちょっとした創作活動しながら、気楽に話せる場を提供しています。直接地震や津波の話はしませんが、会話の流れの中で被災した体験や将来への不安なども話してくださいます。中には仮設住宅の近くの集落に新しい住宅を購入し、そこに移ったけれど「お茶っこ」に来ていたという方もおられました。また午前中だけ参加し、午後は介護ヘルパーとして数件のお宅を訪問するのだという方もおられました。

岩手では教会も広い県内に点在しており、大きな被害があった三陸海岸が県の中核である盛岡市などから遠いこともあり、教会員も少なくさらに高齢化も進んでいます。併せて教会や教会員自身が被災者でもあります。教会そ

のものがこの活動を担うには難しさがあるのかと思われました。しかし、この活動が必要な限りは継続できるように、全国から支援することはできるのではないかと思います。

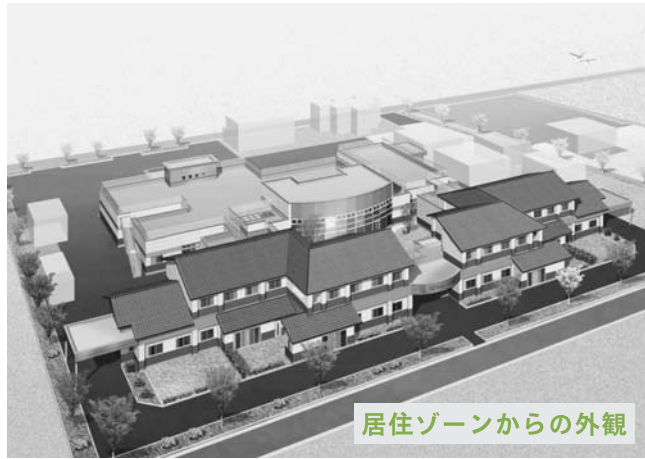
被災直後は、プライベートもない避難所での生活でした。でもみんなが一緒にいることで、その場での安心感があったのかも知れません。それが仮設住宅ということで、それぞれの生活に分かれることで、みんなが集まれる場と機会を意識的につくる必要があります。これは、大きな規模の施設での生活から、ユニット型施設での分かれた生活に移ったときに経験したことと似ていると思いました。次は仮設から地域の中の復興住宅へ引っ越していくことになるでしょう。そしてその地域のつながりの中で新たに生きていくことになるのでしょうか。それは、ユニットケアの施設での生活から地域のケアホームでの暮らしに移ることに似ていると思います。

みんなで助け合って生きていくためのつながりの場所と機会をつくっていくことは、まさに地域福祉活動そのものではないかと思いました。

2日間参加した「お茶っこ」の活動で、みんなでクリスマスマズリースづくりを楽しみました。人の温もりの感じられる心安らかなクリスマスマスを迎えられるといいなと、出会った方たちのお顔を思い出しています。

支援センターわかぎ 改築事業始まります

支援センターわかぎ改築準備室 事務長 小原 英世



居住ゾーンからの外観

これまでの経緯

今回の支援センターわかぎの改築については、法人の大きな事業であることは周知の通りです。平成22年度に改築計画を策定し、浜松市にその計画を申請する直前に起きた未曾有の大震災が東日本に起きたことに憂慮して、概要調査提出の見送りをさせて頂きました。その後、静岡県を通じて浜松市より24年度事業で行う耐震化事業の改築

の助言があり、法人内の役員会や理事会で検討し、平成24年2月に再び浜松市に概要調査の提出を決定し、今期10月末に浜松市より耐震化事業での補助金交付の決定を受けるに至りました。そして、年内には実施設計審査も終え、年明け2月の入札に向け準備を進めている状況となっています。

基本コンセプト

これまでに設計業者と度重なるヒアリングを管理者、現場職員、保護者の会、そして執行役員会とで行い、平成22年度に概要調査を提出するために整備していたコンセプトの細部について再度の確認と見直しを行いました。

①居住棟、②日中活動、③管理棟の明確な3つのゾーンの区分けを行い、わかぎの基本的な考え方の職住分離（暮らす場所、働く場所を分離する）の促進が行われることを強く意識をしたものとなりました。また、利用者の方々の平均年齢が52歳を過ぎていることを配慮し、利用者支援には、排泄や入浴等に複数の職員が関わられるように4つのユニットを大きく二つの機能に分割し、それぞれのユニットの間に浴室、トイレ等の水周りを配置、複数の職員

の協力体制の中での支援が可能になるような構造としました。

暮らし方

居住棟では、それぞれの利用者が安心して暮らせるように、二階建ての構造とし、直線的でない空間を作り出しました。利用者の方々自らが、職員の目線から離れられることが可能となる構造を持たせ、その効果として、自らの居場所を見付け、安堵感を持って頂くことにこだわりを持ちました。また年齢や障がい程度、身体機能にそれぞれ問題を抱えている方も少なくありません。そのことを考えれば、二階建ての構造に違和感もあるかもしれません。勿論、その方々の暮らしの中では、エレベーター等の設備等を設置し障壁等を取り除く設備は有します。しかし、利用者の方々が街に一步出れば、階段等の障壁は普通にあることも事実です。ですから、一つの社会的経験として、

敢えて階段等の障壁も配置して、暮らしの中で経験することで地域での暮らしや経験に繋げて行きたいと考えました。また、管理棟に食堂が配置されています。食堂については、居室棟でユニット毎に食事ができる構造と広さは用意していますが、支援体制の関係から多くは食堂で食事することを想定しています。このことから、多人数で食事をする食堂での食の提供の仕方や食事時間、テーブルの配置等、お互い

に干渉しないような工夫はしたいと考えています。また厨房の食堂側に面した部分はオープンカウンターの構造にしています。これは、食事を提供する方々の様子や厨房での調理の雰囲気を感じて頂き、利用者の方々の食事場面において、食事を提供する側と食する側との相互の関係を作り、楽しむことができるようにと考えました。更に、今後セルフ方式による配食もできるようにカウンター幅を広く取ることにしました。利用者の方々が新しい環境の中でどのように順応して頂けるか難しい部分もありますが、新たな取り組みは楽しい部分も多いと思っています。

働く場所のある生活

日中活動においては、居住棟に頼らずに活動ができるように、トイレ等の水周りの生活設備を有した活動室を中心に、周辺を日中活動として配置することとしました。日中活動については、現在、昼食を挟み居室に戻って休憩時間を過ごすことを余儀なくしています。活動場所で過ごせる設備環境を整えることに主眼を置きました。わかぎでは平成3年の秋から「工房わかぎ」を併設しています。職住分離は従来から考えている基本的な支援の方法であり、今後大きな柱として考えています。この考え方は、従来の施設の中で全てを完結する支援の仕方に違和感を持つ



正面玄関からの外観

たことから始まりました。この基本的姿勢は現在の自立支援法の中にあるように、入所支援、日中活動支援と言いう形で現在は当たり前のようになってきています。この職住分離の考え方を更に一歩踏み出した形で、今回の改築の中でも反映したいと思っています。また、通所の利用者が日中活動で入浴を行うことを想定し、特殊浴槽も整備します。

連絡・確認・協力

管理棟では、現在法人本部がわかぎの建物の一部を利用しています。改築後には、施設と法人本部との相互の事務機能の効率化等を考えた上で事務の協力的体制がとれる構造としました。ま

た職員室については、職員相互のコミュニケーションが取れるように、各ユニット内には敢えて職員室は置かず、職員室を居室棟から離して、職員同士が「連絡・確認・協力」が円滑に行われるように、職員が一か所に集まる配置としました。また、わかぎでは様々な行事が年間を通じて利用者の楽しみとして計画的に行われています。夏まつりや秋まつり等、大きな行事の際には多くの来訪者があります。現在は、施設内の駐車場等の場所を利用して行事を開催しているため、来訪者の駐車場の確保は毎回大きな課題となっていました。そのため、改築後には平屋の管理棟の屋上の有効スペースを行事の会場に使うことを考えました。駐車場に来訪者の方々にご迷惑をお掛けしないようにしたいと思っています。更に、遠方の保護者の方々に、実習の学生さんが宿泊できる設備も設けました。わかぎは若干、交通の便の悪い場所に位置していることもあり、特に遠方の保護者の方々に学生さんにはご不便をお掛けしています。保護者の方々に、宿泊設備を設けることで、慌ただしい時間の中で面会から、ゆとりを持った時間の中で利用者の方々と一緒に過ごして頂きたいと思っています。

地域（在宅）支援

地域から求められる拠点施設として、短期入所や日中一時支援等の受入の充

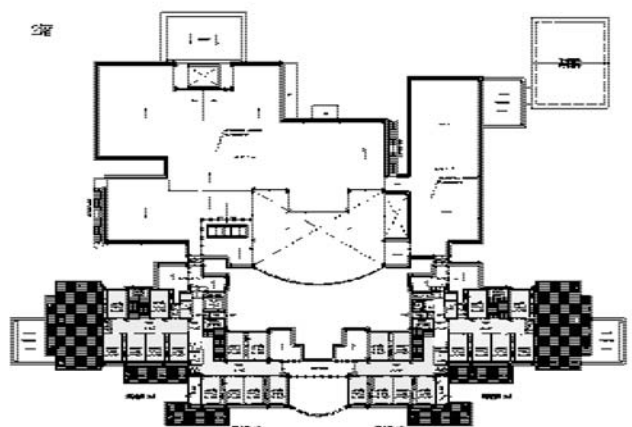
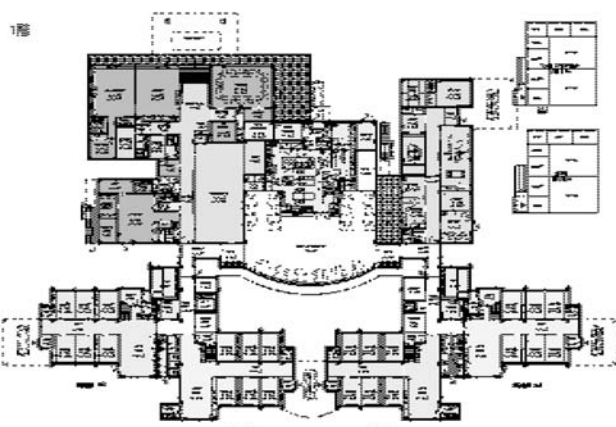
実があります。現在のわかぎでは、設備的な問題で4名の受入が限界です。これを、改築時では受入数を倍増することを計画の中に位置付け、8名に拡充することにしました。入所施設の定員が縮小して行く傾向の中、各市町の要望をお受けできる緊急時の受入の充実は、益々重要な役割となっています。

あてがき

改築には多額の費用が掛ります。しかし、公的な補助金は減額の一途であり、この点が頭痛の種です。法人ではここ数年、資金の内部留保を計画的に進めてきました。まだまだ多い額とは言えませんが、改築の大きな礎となるものであることには変わりありません。

大きな夢を語りながら改築を進める一方、資金面では保護者の会、小羊学園を支える会等を中心にご協力をお願いすることになると思います。又、福祉医療機構への借入も資金計画の中に織り込んでいます。今後、日常運営の中で借入金の償還を20年に渡って行うことになるわけで、より現実的で実効性のある確実な償還計画を進めて行くことが大切です。将来の事業運営の支障にならないよう細心の注意を払いながら資金計画を進めて行きたいと思えます。

支援センターわかぎ改築計画の今後の進捗状況を見守り下さい。



東北被災地支援レポート

～ 報酬の喜び ～

12月3日 支援センターわかぎ 主任 黒田 大空

11月27日に毎月ビーンズで行っている、昼食会に参加させていただきました。ビーンズでは毎月25日を給料日とし給料日の数日後にビーンズの研修生（利用者）さんと職員で昼食外出を行っています。自分達で働いて稼いだお金で食事をする事で「仕事」に対する重要性和「報酬」による喜びを共有することが狙いです。



今回は和食レストラン「まるまつ」へ行く予定でしたが、研修生さん職員で総勢26名と大所帯なこともあり、予約の出来ないお店であったため、仕方なく食事の場をジャスモール内のフードコートに移しました。フードコートでは、それぞれが食べたい物を注文し、広々とした空間に思いの席について出来上がりを待ちました。

皆さん好きな物をワイワイとおしゃべりをしながら食べました。普段のビーンズでのお弁当では出来ない、大きなハンバーグや熱々のラーメンを食べました。デザートにアイスや鯛焼きと甘い物もしっかり食べて満足そうでした。

昼食会後は少しジャスモール内を散策。ゲームコーナーで遊んだり、ウィンドショッピングを楽しみました。普段仕事をしている顔ではなく、純粋にゲームを楽しむ研修生さん達の表情を見て本当に「障害」なんかで線を引けない人たちであり、地域で生活をしているのだと改めて感じさせていただきました。また、皆で出かけたいと思います。



支援センターわかぎ 現存建物お別れシンポジウム
支援センターわかぎのあゆみ

～私たちが受け継ぐもの～

支援センターわかぎの改築計画が決まり、25年3月から解体工事・本体工事が始まります。これに先立ち、若樹学園時代の話しも交え、諸先輩方が築いた想いなど、継承すべく理念を再確認します。

ふるってご参加下さい。

日時：平成25年2月9日（土）13時半～

場所：なゆた浜北3F 大会議室

※ 詳細は次号にてお知らせいたします



あゆみホーム新築工事進む
建物の老朽化が進んだ「あゆみホーム」が北区根洗町から三方原町に移転新築し26年3月に竣工します。11月初旬から工事が始まり、現在は建設工事は上棟を終えた時点でこれから家らしくなっていく予定です。

毎年、年の瀬を迎えるとクリスマスマスの準備やら年賀状作りと慌ただしい日々を過ごすことになる。楽しいはずのイベントも準備段階では憂鬱になるのは皆さん同じだろうか。そこで思い出すのが山浦俊治初代理事長が好きだった聖句「明日のことを思い煩うな」（マタイ6章34節）である。今日の苦しみは今日終わるのである。先を案じ心配するより、今日という1日を一生懸命生きようと奮い立たせてくれる。
この号が届く頃にはクリスマスも終えて迎える頃でしょう。皆さま良いお年をお迎え下さい。そして、来年も健康と平安が皆さまの上にありますように祈っております。
(F)

編集後記

小羊学園を支える会

2012年度寄付金報告

11月受付分 221,781円 (29件)
累計 2,963,806円 (204件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。
小羊学園を支える会事務局（鈴木）
三方原スクエア内 ☎ 053-414-1833